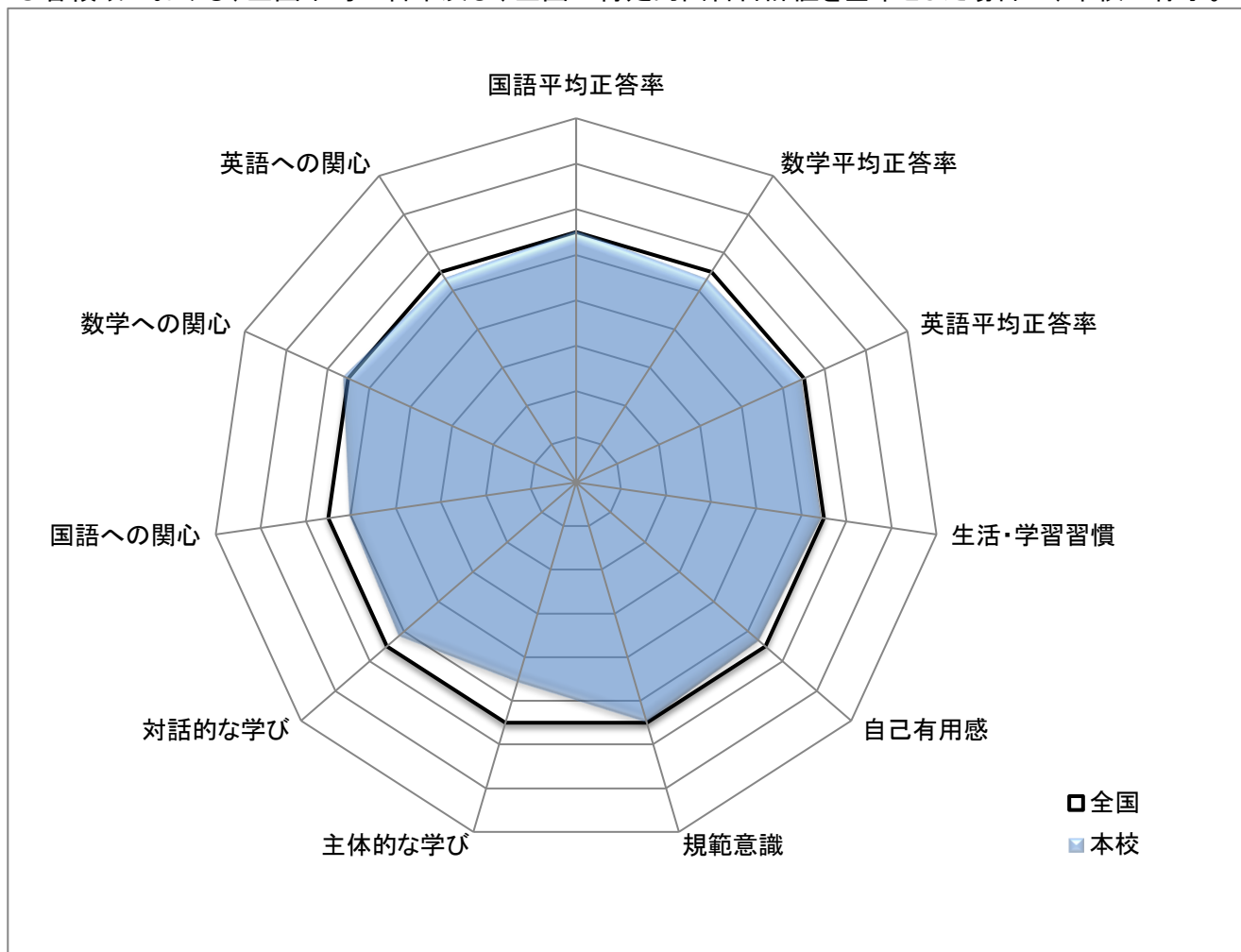


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

規範意識、自己有用感、生活・学習習慣ともに全国と同程度ではある。しかし、対話的な学びと主体的な学びにおいては、全国平均に届いていない。特に主体的な学びは、かなり低い結果だといえる。自分の学力に応じて、自ら積極的に学習に取り組む生徒を育てなくてはならないと強く感じる。授業への取組においては、真面目に前向きに参加できおり、教科に対する関心がみられる。しかし、不得意な教科については、自信がもてずあきらめてしまう生徒も多いのが現状である。

《授業改善のポイント》

国語・数学・英語ともにほぼ全国平均であるが、東京都のレベルにはかなり届いていない。引き続き各教科の基礎・基本の定着を図りつつ、個々の学力も伸ばす工夫を考え、実践していくことが必要だと思われる。国語では、ほぼ毎時間の漢字テストを行っている。数学では習熟度別指導の実施を引き続き行う。英語においては、授業内でのペアワークとグループでの話し合い、教え合いの時間を入れるなど、学力に課題がある生徒もより授業に参加しやすい環境を考えつつ行っている。また、この3教科においては夏休みなどの長期休業中に補習授業を行うなどもしている。可能な限りで、学習の向上につながる取組をしていく。

《チャートの特徴》

国語・数学・英語ともにほぼ正答率が全国平均である。数学と英語に関する関心は全国の水準とほぼ同じである。国語に関する関心はやや水準に達していない。生活・学習習慣、自己有用感、規範意識は全国の水準とほぼ同じであるが、対話的な学びはやや水準を下回っている。また、主体的な学びに関しては、水準をかなり下回っている。各教科指導はもちろん、学年や学校のあらゆる取組を通して、生徒の物事に対して主体的に取り組み、主体的に学ぶ姿勢を育てたい。生活・学習習慣の回答は全国水準に達しているが実際の生徒の家庭での学習習慣はまだ低い。

《家庭・地域への働きかけ》

基礎・基本の定着を目指して、授業だけでなく、家庭での学習の取組を習慣化させたい。生徒が少しでも意欲的に取り組める学習課題を設定するなど、学校から積極的に生徒に働きかけ、粘り強く継続していく。保護者会や面談、学年通信等で家庭の協力を促す。